

6 データドリブン系ビジネス創出【取り組み事例2 finposs™】

地域金融機関の融資業務に対しAI分析から業務活用までを支援するサービス

費用対効果が不透明、活用する人材が不足しているといった理由から、金融機関の融資業務におけるAIは限定的にしか活用されていないという調査結果がある。*1NTTデータは課題解決として、本業の融資業務に対するAI分析サービスとしてfinpossを開発・提供している。

※1 金融庁 金融機関のITガバナンス等に関する調査結果レポート（令和3年6月）

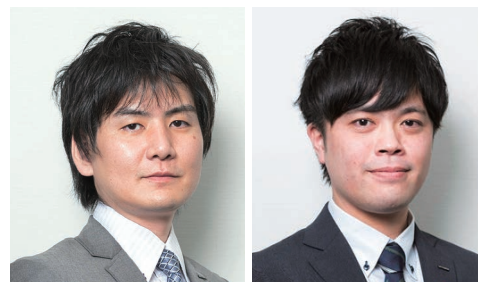
融資業務×クラウド×AIで業務の高度化を実現

一般に融資業務は、渉外活動 → 稟議作成 → 融資審査 → モニタリングといった一連の流れを辿る。finpossは、これら4つの各過程に対してAIを活用し、ヒアリング準備、過去の稟議書類検索、信用スコアリング、企業の悪化/成長等を行いつつ、データをクラウドに保存。融資業務サイクルを繰り返し継続的に実施することで融資業務の高度化を実現する（図1）。

AI使用、未使用での渉外活動結果を比較した結果、最大約1.5～2.0倍の融資実行件数増、融資実行には至っていないがリード獲得が約3～5倍の成果を実現している。

AWSの約70のマネージドサービスを活用

実現手段としてfinpossは、早く、安く、精度の高いAIサービスを目指し、AWSの約70のマネージドサービスをフルに活用し、個別金融機関単位に提供する。また、FISC準拠に相当する高いセキュリティを構築に加え、MLOps、AutoML、DataOps、といった仕組みを構築している。実際にMLOpsの仕組みを導入した結果、スクラッチ開発として行っていたPoCの実績と比較して、開発期間は1/8に短縮し、開発にかかるコストも70%削減した。また、AutoMLや?AutoGluonの仕組みを上手く活用したことで、スクラッチ開発をした場合の精度と比較して、需要予測AIは20%、融資審査AIは



株式会社NTTデータ
第二金融事業本部
システム企画担当

(左) 課長 山野 清晴氏 (右) 主任 石田 浩晃氏

25%の精度の改善ができた。

今後の展開

今後NTTデータは、業務分析、データ加工、分析、AIモデル構築、業務活用等を繰り返しスピード感を持って対応しスパイラルアップを行う。また、現場人間力、対面活動に対してデータ分析を追加するデータドリブンを追加し、融資業務のトップラインを目指す意向だ。さらに、金融機関が保持しているデータだけでなく、ログデータ、API接続先との連携、顧客や調査会社からの取得データ、SNSからの取得データ、オープンデータ等を活用し、金融機関と中小企業分析を実施していくことで地域金融機関と中小企業の橋渡しにも貢献していく。



図1 finpossで実現できること